

平成26年度 博学連携事業

博学連携講座『上町台地 2000年-土地に刻まれた歴史をさぐる-』

開催日：平成26年11月10日～12月8日 全4回
 開催場所：大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル 6階）
 のべ受講者：381名

上町台地と周辺低地の古地理復原	大阪文化財研究所 総括研究員 趙 哲済
原始・古代の大阪湾岸における集落と都市	大阪歴史博物館 学芸員 杉本 厚典
古代大阪市域の行政区画	文学研究科 准教授 岸本 直文
中世・近世の上町台地-一遍、蓮如、秀吉から探る-	文学研究科 教授 仁木 宏

ミュージアム連続講座2014「大坂の陣とその時代」

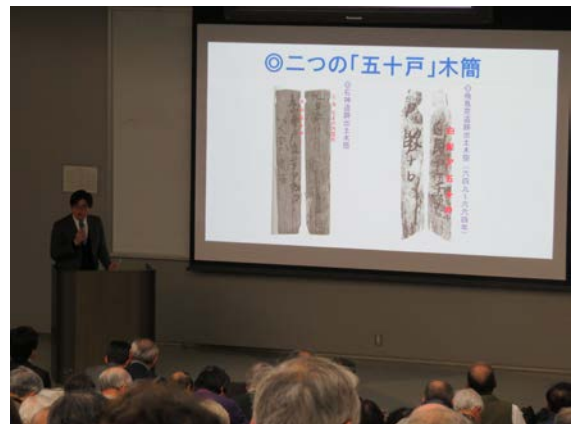
開催日：【第1回】平成27年1月30日（金） 『大坂の陣と「大阪」再論！』
 開催場所：大阪市立難波市民学習センター
 受講者：121名

16世紀「大阪」論-秀吉は何故、大坂を選んだのか-	文学研究科 教授 仁木 宏
---------------------------	---------------

シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅱ」

開催日：平成27年2月22日（日）
 開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス
 受講者：300名

大化改新については、その評価をめぐる長く論争が繰り返されてきました。前期難波宮は内裏・朝堂院を南北に連ね、その東西に官衙^{かんが}を置く日本古代宮室の起源をなす画期的な王宮です。これこそ孝徳朝がめざした国家構想を体現するもので、大化改新が虚構でない最も明確な証拠となるものです。そこで、平成26年2月に実施した発掘60周年の学術シンポジウム「難波宮と大化改新」に続き、難波宮跡と大化改新論について、最新の研究成果に基づき再び議論しました。



孝徳朝のめざしたもの	文学研究科 講師 磐下 徹
条里制と地方行政区画	文学研究科 准教授 岸本 直文
難波の宮と京の設計方法	大阪文化財研究所 学芸員 市川 創
前期難波宮と唐の大極宮	大阪歴史博物館 学芸員 村元 健一